

公益社団法人

全国学校栄養士協議会報

令和4年1月
第79号

発行

公益社団法人
全国学校栄養士協議会
電話 03 (6380) 4360全学栄ホームページ <https://www.zengakuei.or.jp/>

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

長期間にわたるコロナ禍にあって、不自由な生活を余儀なくされておりますが、本年こそ、希望に満ちた年になりますよう祈念してやみません。

皆様には、平素から本会の事業運営につきまして、多大なご支援を頂いておりますことに深く御礼申し上げますとともに、本年もどうぞ変わらぬご協力のほどお願い申し上げます。

さて、昨年4月、国の第4次食育推進基本計画がスタートしました。

この中で、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防、食に関わる環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する食育の在り方等、コロナ禍の「新たな日常」を踏まえつつ、取り組んでいくべき課題が示されております。また、学校における子供への食育は、さらに重要であるとして、それを担う栄養教諭に期待されるものも大きくなっております。

このことに応えるためには、「学校給食の時間」「教科学習の時間」等に行う食育を、体系的に整理して、全体計画にしっかり位置付け、発達段階をつないで継続的に取り組んでいくことが求められます。栄養教諭である私たちは、食育を通して子供たちの意識の変容や学びの深まりを、しっかり評価していくことが大切です。また、取組の方向性を検討し、結果を分析して、エビデンスを創出することができる力の育成が求められます。本年も、本会ではオンラインと対面の形式をとりながら、資質向上を目指した講習会を開講します。食育の取組の見える化を図り、広く理解をしていただくことが栄養教諭の必要性和配置促進につながることであります。多くの皆様に参加していただき、地に足の着いた確実な食育を推進する力を身に付けていただくよう願っています。

会長 長島 美保子



〈目次〉

- ICTを活用した食育……………2～3
- 各部の報告……………4～6
- 助成事業報告……………6
- 第62回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会報告（群馬県）……………7
- 第72回全国学校給食研究協議大会報告（北海道）……………7
- 都道府県だより……………8



第57回学校給食夏季講習会、食育推進講習会（ライブ・オンデマンド配信）

「ICTを活用した食育」

大分県宇佐市立糸口小学校

校長 岡部 崇

糸口小学校は、宇佐市の北西部に位置する小規模校で、周囲には田畑が広がり農作業の様子から季節の移り変わりを感じ取ることができます。教育目標を「言葉を大切に、話す・聞くことを通して仲間とつながる糸口っ子の育成」とし、授業改善に取り組んでいるところです。

児童は素直で明るく、休み時間には運動場に出て元気に遊ぶ姿が見られます。しかし、時折、体調不良を訴えて保健室に行ったり授業中に姿勢が悪くなったりする児童もいます。話を聞くと「朝ごはんをしっかり食べていない。」とか「つい寝るのがおそくなった。」など食事や生活リズムの乱れが原因だと考えられることもあります。

本校には上野恵美・藤本彩花栄養教諭が在籍し、宇佐学校給食センターに勤務しながら市内小中学校（給食受配校23校）の給食・食育指導の中心になっています。本校では保体部に所属し、各行事や委員会活動に専門的な視点から関わっています。児童に明るく声をかけたり元気がない様子に気がいたら担任と話をしたりするなどして職員と連携して児童を見守っています。児童の朝食や給食残菜の実態調査をし、保護者への啓発が必要だと考えたときには、授業参観日に食育の資料を配布したり時間をとって保護者に食の大切さを話したりしたこともあります。

【糸口小給食レンジャー】

「わーっ!」…教室で笑い声と共に大きな歓声が起きました。給食の時間にタブレットで作成した動画を各学年で見えています。テレビ画面からは「私が、赤レンジャー。骨や肉になる…」

等のセリフが聞こえてきます。そして「あれ校長先生や!」「保健室の先生?」「給食センターの先生や!」など児童が言っています。そ



れは栄養教諭と養護教諭が相談しながらキャラクターやシナリオを考えた「糸口小給食レンジャー」の動画です。1年生から6年生までが楽しく食育の学習ができるように、栄養素を赤・黄・緑の3つに分けキャラクターを設定してつくりあげています。これまでも本校では「早寝・早起き、朝ごはん」をスローガンにして食育と生活改善に取り組んできました。以前は、各教室を担当がエプロン姿でまわって説明をしていました。それをタブレットを使って動画配信することを始めたのが上野恵美栄養教諭です。上野栄養教諭はコロナ禍でもこれまで同様に食育の大切さを児童生徒に伝え続ける必要性を強く感じてタブレット使用を思いついたようです。いったんタブレットを使うことを決めるとその特徴を生かし、シナリオづくりから撮影まで中心になって取り組みました。撮影時には「先生、体育館で登場シーンを撮ります。」「後から編集しますから、今日はこれで終わりです。」など児童の興味関心を引きつけるようなシーンを考えたり時間の調節をしたりして周囲の職員を楽しく巻き込みながら取り組んでいました。完成作品には効果音や字幕、アニメーションも取り入れていて食育への熱い気持ちが伝わってきました。

【ICTを活用した食育指導】

活動は本校だけではなくありません。市内小中学校を訪問して行くこともあります。デジタル紙芝居を取り入れた「走らせよう～自分の中のげんき号～」の授業（小1用）、「夏野菜」や「県産魚」「牛乳」などの指導教材もタブレットで作成し給食指導にも取り組んでいます。また、給食センターで給食を作る様子をまとめた動画も作成して市内に配信しています。

そして市内の4年生と6年生を対象にタブレットを活用して食事の献立を考える授業にも取り組んでいます。4年生は「朝ごはんの大切さについて考えよう」をめあてにし、一日を元気に活動するために必要な料理（栄養素）の組み合わせを考えさせます。6年生は「1食

分の献立を考えよう」をめあてにして、栄養素を思い浮かべながら、主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせて理想の献立をつくります。日頃の食事と比較させるために資料になる料理はより身近なものを多数用意します。より多くの品数に触れることで食事への関心が高まることを期待しています。すべての資料は上野栄養教諭が調理したものをデジタル化して使用しています。今ではバージョンアップされ、その操作性も向上しています。さらに食欲を刺激して食事を楽しもうとする気持ちを高めるものにしたと考えているそうです。以前は、料理カードとホワイトボードを使って授業をしていたため、教材準備や片付けが大きな負担になっていたそうです。また、より学習効果をねらって資料(料理や食材)を増やすと机上の整理がうまくできずに混乱する児童もいたようです。

ICT化に取り組んだことで、資料はタブレットに多数盛り込むことができます。そして配信すれば準備完了です。児童は資料(料理や食材)の組み合わせを考えながら何度も何度も操作を繰り返して献立を考えます。そして操作をしている時に「五大栄養素が入っているかな?」「私はこの料理がいいな」「組み合わせがおかしいなあ」などグループで話し合うことで栄養素の理解が進みます。



振り返りでは「いつもはパンしか食べてなかったけど、これからはちゃんと食べようと思う」と発表したりする姿が見られ、実生活と学習したことの関連づけができ、食生活を豊かにするきっかけになっていると考えられます。

【USAふるさとちゃんねる】

これは、宇佐市産の食材理解を目的とした取り組みです。生産者本人に出演してもらうことで児童生徒が食材への関心を高め、生産に関わる人々に対する感謝の気持ちを育み、ふるさと宇佐市についての理解を

深めてほしいと考えて取り組んでいます。

宇佐市では市内で生産された食材を給食に取り入れる「ふるさと給食」を毎月1～2回実施しています。栄養教諭は「ふるさと給食」当日の給食時間に学校を訪問して給食指導を行っています。対面で話をするメリットはありますが、限られた時間で多くのクラスを回って説明するには限りがあります。そこでタブレットを使って動画にまとめ、配信することを始めました。そうすることで生産者へのインタビューや生産や収穫・出荷の作業の様子から、伝えたいことを効果的に表現することができます。さらに市内全ての小中学校で旬の時期を逃さずに視聴することもできます。また、作品にはそれぞれの食材をイメージしたキャラクターを設定したり効果音なども取り入れたりして児童生徒の興味感心を湧き立てるように工夫されています。(*資料は市内共有フォルダに入れているので各校で自由に使用できる)

さらにICT化は人と人をつなげることもできました。栄養教諭が食育授業のために学校を訪問した時に



「はじめまして…」と自己紹介をする
と「あ!ふるさとちゃんねるの人や」と
「この前見たよ!」などと

声をかけられることがあるそうです。実際に出会わなくても動画を通して栄養教諭の食育への思いが広がっているのです。

本校でも児童は栄養教諭から声をかけられると自然と表情が明るくなります。きっと児童の健康的な成長を願ってICT化に取り組んだ成果があらわれていると思います。学級担任も、栄養教諭と協働して食育指導に取り組むことで多面的で専門的な学習を進めることができ、一人で悩みながら準備するようなこともなくなりました。食育学習をICT化することで充実した学習内容と効果的かつ効率的な指導の好循環が生まれていると感じています。

今後も児童生徒が一日をいきいきと元気に活動するために栄養教諭と連携した各校での食育学習がより重視されなければなりません。そのためにも栄養教諭のさらなる活躍を期待します。

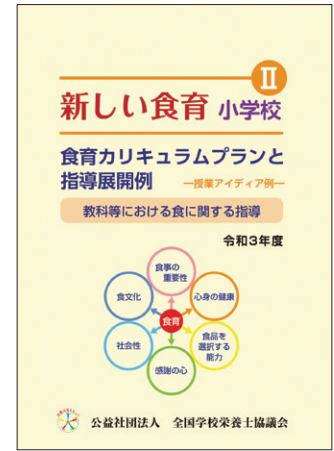
総務運営部 総務運営部は、会の運営に関する事項全般を所管します。

新しい食育 小学校「教科等における食に関する指導 II」

令和3年度は昨年度に引き続き、「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」を踏まえ、身につけたい資質・能力を育成するために「食育の6つの視点」に沿った「教科等における食に関する指導」の指導展開例を作成しました。

教科と食に関する指導が連携しつつ、双方の目標を達成し教育効果を高めることができると思われる単元を選び、カリキュラムプランを作成し、授業の実践事例をまとめました。

積極的に教科担任と連携し、食に関する指導が進められることを願っております。



新しい食育 小学校
「教科等における食に関する指導 II」

研究部 研究部は、給食管理や食に関する指導の実態を把握し、今後の指導に生かすために必要な資料を作成するとともに、栄養教諭等の資質向上のための研究を行っています。

1 食育推進リーフレットの作成・配布

食育推進啓発活動として「日本各地の郷土料理」をテーマとした食育推進リーフレットを作成し、発行しました。ワークシートやクロスワードパズルを載せて、調べ学習にも役立つ内容としました。郷土料理マップには、47都道府県の特徴ある汁物、煮物を載せてあり、興味深いものです。各都道府県から資料の提出等、ご協力いただき有り難うございました。素晴らしいリーフレットに仕上がりました。ぜひ、活用していただきたいと思います。



2 研究授業方式による衛生管理研究会

令和2年度に各都道府県で取り組んだ研究授業方式による衛生管理研究会の事例の中から、参考になる取組を紹介した実施記録を発行しました。今年度は、食物アレルギー対応事例を紹介しています。各施設の衛生管理等に御活用ください。



《 研修部 》 研修部は、会員のための各種講習会の運営を行っています。

令和3年度の講習会の様子と感想

令和3年度はインターネット配信を活用して、各講習会と免許状更新講習を開催することができました。講習会の様子と受講者の感想を紹介します。

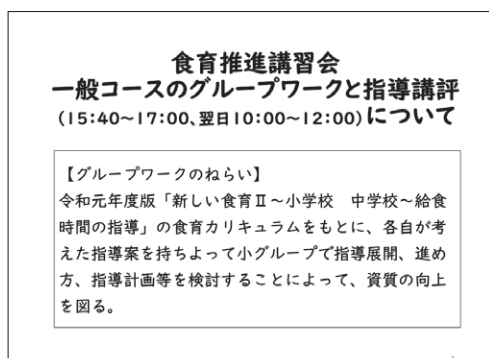
1 第57回 学校給食夏季講習会



【ライブ&オンデマンド配信】 給食管理、学校における食育をはじめ、栄養教諭が知っておくべき食物アレルギー対応や著作権などについて、最新情報と現代的課題などを学ぶ機会となりました。

【参加者の感想】 改めて栄養教諭としての職務と責任を自覚し、基本的なところも再度確認ができました。法律や基準は変化していくので、最新の情報に敏感でなくてはならないと思いました。

2 食育推進講習会 一般コース



【Zoom配信（ブレイクアウトルーム）】 すぐに現場で役に立つ最新の情報を、第一線で活躍されている講師の先生方から学びました。グループワークを取り入れ、給食時の指導について活発な意見交換を行い、指導講評もしていただきました。

【参加者の感想】 オンラインではあるけれど、他県の方々と情報交換をし、悩みを相談できてとても良い機会となりました。最新の情報やエビデンスもあり、指導案検討をできたことは私の発見・知識となり栄養教諭としての財産になりました。

3 食育推進講習会 データ解析・論文コース



【ライブ&オンデマンド配信】 食育の成果を「見える化」するための手段、データ解析の方法やHADの使い方など、高度な知識の習得と指導力の充実を図ることができました。

【参加者の感想】 食育の成果を「見える化」する方法のひとつとして、統計解析が必要となってくる。勉強して技能を身につけ、研究していかなばならないと思いました。

4 栄養教諭免許状更新講習

【オンデマンド配信】 令和2年度に引き続き、文部科学省からの「新型コロナウイルス感染症への対応に関する免許状更新講習の実施方法の特例等の延長及び拡充について（通知）」で示された特例（対面式講習について通信式講習として実施すること等）により開催しました。

◀ 渉外部 ▶

渉外部は、機関誌の発行と学校給食用食品の開発、食育活動集の作成を行っています。

1 機関誌「公益社団法人 全国学校栄養士協議会報」の発行

本協議会の活動報告、各種大会の案内や報告、都道府県だよりのほか、今年度は8月発行の78号に「第4次食育推進基本計画について」文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課よりいただいた詳細説明を掲載しました。

2 学校給食用食品の研究開発

(1) 災害時における非常食の開発

ライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として、「救給シリーズ4種」が開発されました。自然災害だけでなく、不測の事態や備蓄、防災教育等にも活用されています。現在は「野菜の煮物」の開発を進めています。

(2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発を行い、学校給食献立充実のための調理講習会や親子料理教室をとりまとめています。

3 学校給食週間行事の推進

全国で実践されている食育活動を収集し、事例集を作成します。今年度は、令和2年度分第6編を発行します。



助成事業報告

児童の食生活の変容に向けた学校における食育の取組の効果を探る

栄養教諭食育研究会 広島ブロック研究メンバー 三上 真由美

広島市のA小学校では、平成24年に栄養教諭が配置され様々な実践を重ねてきました。知識から意識、さらに行動へとつなげる学びと横断的・系統的な指導を行うため、児童の実態を明らかにし、学校における食に関する指導の効果を探ることを目的に本研究を行いました。

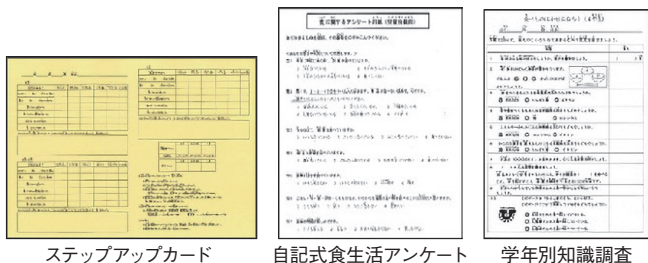
A小学校5年生の時に実施した自記式食生活アンケートの結果と生活習慣ステップアップカードおよび食に関する知識調査の1年生から5年生までの結果を用いて、1年生から5年生までの5年間の朝食の野菜摂取と排便状況の経年変化や、食に関する知識と朝食の野菜摂取との関連性、食に関する知識と食に関する意識との関連性について解析し、児童の食生活につながる食育の取組の効果や関連性を探りました。

平成31年度5年生の食生活アンケート調査結果では、児童の95.5%が平日は毎日朝食を食べ、78.9%が朝食にいつもあるいは、だいたい野菜を食べ、84.4%が週7日のうち4日以上排便があると答えました。

また、生活習慣ステップアップカードで平日の朝食で野菜を食べている日数が3日未満だった児童は、1年生の時には23人でしたが、5年生では11人に減少していました ($p<0.05$)。経年的変化では、1年生から2年生で減少 ($p<0.05$) していたものの、4年生で増え、その後減少していました。1年生の時に3日未満だった23人については、16人の児童が5年生までに改善しており、2年生で改善した児童が最も多い結果でした。

朝食の野菜摂取は、2年生で改善した児童が最も多く、低学年の時期に重点的に指導を行ったことにより、児童や保護者の望ましい食習慣への意識が高まり、行動変容につながったのではないかと推察されます。排便習慣については、4年生で改善が認められたことから、長期的な視点からの指導内容と時期を検討する必要があることが分かりました。

今後も、児童の望ましい食習慣の形成につながる効果的な食育の実践を行っていきたいと思います。



第62回 全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会(群馬県)の報告

群馬県代表者 本間 ナヲミ

第62回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、群馬県高崎市において、『栄養教諭を中核とした学校における食育の推進』～つなげよう ひろげよう 心にググッと ぐんまの食育～を主題に、令和3年8月5日(木)・6日(金)の二日間にわたり開催されました。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、Gメッセ群馬から全国に向けて配信する、初めてのオンライン開催となりましたが、1,200人もの先生方にご参加いただきました。

1日目の全体会では、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長の三木忠一様より「学校における食育の推進と栄養教諭の役割」や「栄養教諭の配置促進」について、お茶の水女子大学赤松利恵教授による「栄養教諭に期待される資質・能力」というテーマでのご講演、その後、齊藤るみ学校給食調査官の進行でシンポジウムが行われました。



【ググッとぐんまのお弁当】

2日目は、Zoomのチャット機能を使用し、分科会毎に研究テーマに沿って研究発表や研究協議を行いました。参加して下さった皆様からご質問やご意見をたくさんいただいたおかげで、充実した分科会となりました。



【分科会の様子】

さらに、皆様にご覧いただけるよう、展示物は会場で展示するだけでなく大会誌にフルカラーで掲載し、本大会での各発表等については見逃し配信を行いました。

この大会を通して貴重な体験をさせていただき、多くのことを学ぶことができました。

これらを今後に生かし、子どもたちのために食育の推進に努めて参りたいと思います。

第72回 全国学校給食研究協議大会

北海道代表者 小野寺 由希恵

第72回全国学校給食研究協議大会が10月21日から2日間、北海道・札幌のホテルライフオーを主会場にオンラインで開催されました。全国の学校給食関係者約1230人が参加しました。大会主題「生きる力」をはぐくむ食育の推進と学校給食の充実のもと、学校給食の役割や発信の在り方を協議し、食の大切さを子供たちに伝え、自己管理能力を育む学校給食の役割を再確認しました。初日のシンポジウムでは「日常生活の食事」に生きる学校給食～教材となる‘おいしい’給食の実践と発信」をテーマにオンライン化の工夫等、新しい学習モデルの構築に向けて多くの提案がされました。



都道府県だより

茨城県学校栄養士協議会の取組

茨城県では、次の二つの専門部を立ち上げ、研究を進めています。

食に関する指導研究部では、『早寝・早起き・朝ごはん』の推進のための研究を行っています。昨年度は、休校が長期化したことにより、児童生徒の食生活リズムの乱れや心身の健康への影響が懸念されたことから、休校中の児童生徒の食生活状況を把握するため、Web アンケートを導入し食生活調査を実施しました。今年度は、その結果も踏まえ、ICT を使用しての授業研究も進めています。

栄養・衛生管理研究部では、ATP 拭き取り検査や食器洗浄残留物検査など様々な検査を通じて、数値化することにより、目に見える形で衛生管理がで

きるように研究をしています。そして、データに裏打ちされた事項を基に効果的な指導を行い、調理従事者と共に安全安心な給食を作っていけたらと考えています。

また、全体研修会では、県保健体育課と共催で、国立大学法人上越教育大学大学院の野口孝則先生を講師にお迎えし、『食育カルテ』についての講演をオンライン形式で実施しました。

今後も子どもたちの心身の健康を守るため会員が一丸となり食育の推進に励んでいきたいと思っています。

茨城県代表者 樋口 教子

食を通して育てよう 未来を担う愛知の子どもたち！

私たちの会は、令和元年に「愛知県栄養教諭研究協議会」と名称を変更し、愛知県内の小中学校、特別支援学校、夜間定時制高等学校に勤務する栄養教諭・学校栄養職員で、学校給食の充実と食育の推進のための活動をしています。各地区から選出された役員・理事が中心となって、研修部会、調査研究部会、研究集録部会、食育推進部会、庶務部会の5部会に分かれ、研究大会・研修会等の開催や、研究集録誌の発行、食育指導用教材の研究開発、ホームページでの情報発信など、さまざまな活動を行っています。

食育指導の重点課題を、「野菜を食べる習慣を身に付けさせよう」「日本の食文化を伝承しよう」「地場産物を活用しよう」とし、「あいち食育いきいきプラン 2025～第4次愛知県食育推進計画～」の目標達成も目指しているところです。

コロナ禍でできる活動を模索し、今年度会員一同

が集まる研究大会は、Zoom を使ったのオンラインにて、3地区の研究発表と講師をお迎えしての講演を行いました。また、講演会の動画配信、オンライン研修会、地区ごとの中・少人数が集まる研修会を実施するなど、研修の充実を図っています。

令和2年度コロナ禍で中止となった「食育推進全国大会inあいち」、今年6月に改めて開催予定となっているので、(公社)全国学校栄養士協議会とともに愛知県栄養教諭研究協議会としても出展準備を進めています。ぜひ多くの方にご来場いただければ幸いです。

今後も、未来を担う愛知の子どもたちのため、会員一丸となって食育の推進に取り組んでいきたいと思っています。

愛知県代表者 森田 咲紀

徳島県学校栄養士協議会の取組

徳島県学校栄養士協議会は、徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会と連携して活動しており、県内11のブロックに分かれて研究課題を設定し、研修に取り組んでいます。県全体としては、年2回研修会を開催しており、県内外から講師を招いての講義で専門的な知識の充実を図るほか、各ブロックの実践発表をもとにグループワーク等で研究協議を深めるなど、会員の資質向上に努めています。

また、例年、夏に調理技術向上のための調理講習会を実施していましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催することができませんでした。そこで、今年は講師にレシピの作成を依頼し

て会員に配布し、少人数あるいは個人で調理を行う方法へと変更しました。調理の際には1人1台の調理台を割りあてる等、十分な感染対策を講じることができ、また、改正された学校給食実施基準を満たす給食提供のための工夫などを話し合うこともできました。

今後、新型コロナウイルスの影響がいつまで続くかわからない中ではありますが、どのような環境下でも常に前を向き、子どもたちの健やかな成長を願い、食育推進の一助となるよう、研鑽を重ねていきたいと思っています。

徳島県代表者 石橋 佳代